

## 加熱式タバコについて

“新型タバコ”という語をご存じですか？ 日本では”IQOS(アイコス)”、“PloomTech(プルーム・テック)”、“glo(グロー)”などの商品名で販売され、より正確には「加熱式タバコ」と呼ばれるタバコ製品です。これらの製品の中身は従来の紙巻タバコと同様ですが、火をつけてタバコを燃やすのではなく、より低温で加熱して生じる蒸気(エアロゾル)を吸引するよう設計されています。“煙の出ないタバコ”、“臭くないタバコ”、“害の少ないタバコ”というイメージで受け止めている方も多いかもしれません。従来の紙巻タバコに比べ『有害性物質約90%オフ』といったフレーズをご記憶の方もいらっしゃるでしょう。

しかしこのフレーズには注意が必要です。何千とあるタバコの有害成分のほんの一部が約9割少ないのは事実ですが、加熱式タバコには以下のような重大な懸念があります。(1)

『90%オフ』とは、喫煙による様々な健康被害のリスク(確率)が9割少ない、という意味では全くないこと(タバコ会社の宣伝にもこのことを認める記述が目立たぬ形でなされています)。(2)主流煙中のニコチンや発がん性物質の一部(ホルムアルデヒド、アセトアルデヒドなど)は、従来の紙巻タバコと同じ程度認められる。(3)未知の健康被害リスクが存在する。例えば、吸入した場合に人体への影響が未知である物質(プロピレングリコール、グリセロールなど)が高濃度に含まれている。(4)受動喫煙による健康被害の可能性があり、日本呼吸器学会や世界保健機関(WHO)もその懸念を表明している。(5)ニコチンの血中への移行速度と濃度は従来のタバコと同程度であり依存症の度合いも同じくらいと考えられている。(6)従来の紙巻タバコ使用者がいったん加熱式タバコに移行したものの、結局どちらも使用する「二重喫煙」に陥ることがある。

加熱式タバコが及ぼす健康被害の詳細を科学的に明らかにするには、残念ながら今後相当の時間がかかるでしょう。全てが明らかになるまで待つのではなく、上記の重大な懸念を喫煙者にお伝えし、できるだけ禁煙してもらうよう支援することが産業保健スタッフに求められる姿勢だと考えます。

より詳しく知りたい方には、次の参考文献をお勧めします。『新型タバコの本当のリスク、アイコス、グロー、プルーム・テックの科学(田淵貴大 著)』

COI：特にありません。

和歌山県立医科大学 衛生学講座  
藤吉 朗